

令和7年3月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859)

三田氏位牌と野口刑部少輔秀房のぐちぎょうぶしょうゆうひでふさ

名 称 青梅市指定有形文化財「三田氏位牌裏書」

総 丈 62.7cm (二尺)

構 造 木製黒塗朱漆文字

制作年 寛永4(1627)年

製作者 野口刑部少輔秀房

【解 説】

永禄6(1563)年、北条氏康・氏照は三田氏居城の辛垣城を攻め落城させました。当主三田弾正少弼綱みた だんじょうしょうひつな定さだ(綱秀)は岩槻城に逃げるも同年10月13日に自害し、中世青梅一帯を支配していた三田家宗家は滅亡します。

本位牌(写真-1)は、三田氏の遺臣野口刑部少輔秀房が現青梅市二俣尾の海禅寺、同天ヶ瀬の金剛寺、同根ヶ布の天寧寺へ納めたもので、特に裏書き部分には三田氏の出自から没落について記されており、昭和39(1964)年に青梅市の有形文化財に指定されましたが、海禅寺所蔵のものは昭和59(1984)年の火災により残念ながら焼失しています。位牌表側は「将門平親王朝臣三田代々尊霊」とあり、三田氏が平将門の後裔を名乗っていたことがわかります。



写真-1 三田氏位牌(表)

【裏書原文】

「右親王被為、御輿立所山中棚澤也、依之彼也ニ將門奉祝御宮作有之、自先代太夫至今迄、御宮本ヲ敬曰奉拜礼者也、抑三田御先祖將門ヨリ七拾四代目迄、自幡氏曾御面目以来無患、然所永禄六年癸亥年彈正少弼綱秀御他界、御子達三人其以後御滅亡、幾万人侍衆臣下等迄絶果、御普代ノ野口計八十九歳マテ殘命、後代覺奉立御先祖御位配、御菩提所迄老筆裏書御他見御免仍如件

寛永四年丁卯八月吉日

野口刑部少輔秀房松月(花押)」

【現代文訳】

『将門親王が居城を建てられた場所が山中の棚沢（奥多摩町棚沢）である。よって将門親王を称えその地に神社を作った先代太夫（三田蔵人大夫か）より現在に至るまで、神社を敬い礼を尽くした者（が三田家）である。そもそも三田家の先祖である将門親王より七十四代目まで、かつて幡氏（上野小幡氏か）より所領の面目をいただいて以来無事に治めてきたが、永禄六年に三田弾正少弼綱秀様が他界され、その後、その子弟たちも亡くなって滅亡、多くの武士や家臣たちも同じ運命をたどった。三田家譜代の臣である野口は八十九歳まで命を永らえ、後の代の覚えとして菩提所（三田家ゆかりの寺院）にご先祖の位牌を建立する。この裏書きの老いた筆跡を他人にみせるのは免じて欲しい。

寛永四年丁卯八月吉日

野口刑部少輔秀房松月（「松月」は秀房の号） （花押）』

野口刑部少輔秀房はこの位牌を納めたのちの寛永6（1629）年2月12日、青梅市日向和田にて93年の生涯を閉じました。戒名は靈性院松月良永居士といいます。墓地は日向和田に現存し、子孫はのちに三田姓を名乗ります。また、秀房は私費を投じて同所に明白院（曹洞宗海禅寺末）を建立し開基としても名を残しました。

（文責 沖 祐昭）